

令和 7 年度第 1 回全国健康保険協会秋田支部評議会議事録

開催日時：令和 7 年 7 月 9 日（水）13：30～15：00

開催場所：パーティーギャラリーイヤタカ 4 階 ジョージアンホール WEST

出席者：松渕評議員（議長）、佐々木（宏）評議員、佐野評議員、小林評議員

佐々木（卓）評議員、畠山評議員、栗盛評議員、田口評議員（代表別・50 音順）

加藤支部長、菅原部長、齊藤部長、今野グループ長、二田グループ長、園部グループ長

本間グループ長、吉田グループ長補佐、小池スタッフ、太田スタッフ、鈴木スタッフ（記）

議事録署名人：佐野評議員、畠山評議員（50 音順）

〔議題〕

1. 令和 6 年度協会けんぽの決算と秋田支部の収支について

資料 1 に基づき事務局から説明

○ 質疑応答、意見

【事業主代表】

秋田支部のその他収入の内訳として債権回収以外と債権回収があるが、この違いを教えてください。

【事務局】

債権回収以外は拠出金等の交付金や還付金のことを指し、債権回収は無資格受診等で発生した債権の回収のことを指している。

【学識経験者】

機械的試算について説明いただきたい。

【事務局】

機械的試算とは、医療給付費の伸び率や賃金の上昇率を一定の数値に仮置きしたうえでシミュレーションしたものである。

【学識経験者】

2024 年度の秋田支部における地域差はマイナスのため 2026 年度の保険料率は上がる方向にあるとのことだが、これまでの地域差と保険料率の推移を伺いたい。

【事務局】

秋田支部保険料率の推移として、2023 年度、2024 年度は 10%を下回っておりそれ以外の年は 10%を超えている状況である。地域差においては、プラスであった年もあればマイナスであった年もある。

【学識経験者】

保険料率を引き下げするためには、秋田支部加入者の行動や意識が重要となってくるが、保険者として認識している課題と取組を伺いたい。

【事務局】

保険料率に大きく影響するのが一人当たり医療費である。秋田支部の場合、年齢調整前の一人当たり医療費が全国で3番目に高いため相対的に保険料率も高くなってしまふ。そのため、一人あたり医療費を抑制していくために加入者の健康度を上げるような長期的な取組が求められる。その前提として、健診の受診率と質を高めることが秋田の課題であると認識し取り組んでいる。またインセンティブ制度においても保険料率の引き下げに向けて取り組んでいるところである。

【事業主代表】

医療給付費の抑制のため、事業主は健康経営の推進、加入者は健康意識の向上に努めることが大切でありそれに尽きると考える。また、積みあがった準備金をどのように活用し医療給付費の抑制につなげるかが重要であり、戦略的保険者機能を有効に遂行するのが協会けんぽの最大の使命であると考えている。

また、けんぽアプリの話があったが塩分摂取量を減らすことや冬季の運動量増加など秋田の実情に特化したアプリがあってもよいのでは。一人ひとりの行動変容を促す仕掛けづくりに励んでいただきたい。

【被保険者代表】

年々準備金残高が積みあがっている現状を鑑みると、平均保険料率を引き下げてもよいのでは。

【事務局】

毎年、他支部の評議会でも同様の意見が挙げられている。協会としては、協会けんぽの財政について、持続可能性の観点から大きな変動がない限り中長期で考えていきたいという姿勢である。

【被保険者代表】

マイナンバーカードと健康保険証の一体化について、おおよその見通しが立つ時期と思われるが、今後も同規模の経費がかかる見込みなのか伺いたい。

【事務局】

今年度でいうとマイナ保険証を持たない方を対象に資格確認書の一括送付を行ったり、必要に応じて新規加入者に資格確認書を送付する事業を継続的に行う予定であるため、同規模の経費がかかるかは分かりかねるが、まったく経費がかからないといったことにはならない。

【議長】

令和6年度協会けんぽの決算と秋田支部の収支について、承認してよろしいか。

【評議員一同】

異議なし。

〔報告事項〕

1. 令和6年度秋田支部事業実施結果について

資料 2 に基づき事務局から説明。

○ 質疑応答、意見等

【事業主代表】

レセプト点検の効率化を図るためマスタメンテナンスを行ったとのことだが、この分野は AI の活用が適しているのではないだろうか。現状、保険者や支払基金では AI 点検を導入しているのか伺いたい。

【事務局】

協会けんぽでは AI 点検は導入しておらず、自動点検にてエラーを選別し、マスタの追加・削除を行っている。

【事業主代表】

適正請求が行われているのであれば、レセプト点検の査定率と査定額が低くても悲観する必要はない。

【被保険者代表】

生活習慣病予防健診の実施件数が前年度と比較し下がった要因の一つとして、令和 6 年度より受診者数の集計が契約健診機関ごとから加入支部ごとに変更となったことが考えられるとのことだが、他に考えられる要因はあるのか伺いたい。

【事務局】

県内で健診事業を廃止する医療機関があったことや、医療従事者の減少により健診業務から医療業務に人材が分散され、医療機関の健診実施数が減少している現状も要因の 1 つと考えられる。

なお、様々な地域で集合健診を行ったこともあり、これまでの集計方法であれば秋田県内の健診件数は昨年度と比較して増加している。

【学識経験者】

令和 6 年度も様々な取組を実施しており、努力された結果が表れていると感じた。

栄養士会では特定保健指導の従事者の確保に悩まされている。秋田支部は従事者の確保及び実施率向上のため薬局などの保健指導の委託先を開拓しているとのことだが、実施件数の増加などにつながっているのか伺いたい。

【事務局】

実施件数は伸び悩んでいる状況である。要因の一つとして特定保健指導対象者に毎年該当となる方が多いことが挙げられる。初めて対象となった方は比較的アプローチに応じてくれるが、毎年該当となる方は特定保健指導の案内を送っても断られるケースが多い。特定保健指導の実施率はインセンティブ制度にも関わってくるため、事業主の理解や加入者の健康意識を高めていく必要性を感じている。

県内各地域で特定保健指導を受けられるように引き続き薬局などの委託先拡大を進めていく。また検診車による集合健診では健診を受けた当日に特定保健指導が受けられることもあり、集合健診の利用者の特定保健指導件数は増えてきている。今後も工夫しながら加入者の健康増進に向けて尽力していきたい。

2. 令和 6 年度秋田支部保険者機能強化予算執行状況について

資料 3 に基づき事務局から説明。

○ 質疑応答、意見等

【学識経験者】

予算執行状況一覧の中に事業実施率が分かる情報を追加してもよいのでは。一般競争入札により契約金額が抑えられたことで執行率は低くなっているものの事業は縮小することなく行ったとのことだが、執行率の数字だけでは理解しにくい。

【事務局】

いただいたご意見をもとに次回以降の資料には執行率だけでなく事業の実施状況も掲載させていただく。

■次回評議会の開催 令和 7 年 10 月開催予定